

2015年8月31日

学校法人 学習院

【報道関係各位】

学習院大学、52年ぶりの新学部

「国際社会科学部」誕生

法律・経済・経営・地域研究・社会学の社会科学5分野の手法で「人の国際化」を目指す

学校法人学習院（東京都豊島区）は8月31日付けで、学習院大学「国際社会科学部」の設置が文部科学大臣により認可されたことを発表致します。これにより、本学にとっては52年ぶりとなる新学部を2016年4月より開設し、国際的なビジネスの第一線で活躍できる人材の養成を目指します。

現在のグローバル経済では、さまざまな国の人々が互いに協力し合い、アイデアを持ち寄って新しい製品やサービスを生み出しています。日本企業においても外国籍の人材を積極的に活用し、国内外で世界の人々と協働することが当たり前前の時代となっています。そういった時代において、これから特に必要となってくるのはグローバルビジネスで活躍できる人材です。

国際社会科学部では、海外でのコミュニケーションに必須となる英語教育を重点的に行うことに加えて、国際社会の仕組みを法律・経済・経営・地域研究・社会学といった社会科学の5分野を総合して多面的に理解し、自ら課題を発見・解決できるグローバル人材としての基礎体力を育むことを大きな狙いとしています。具体的には、まず1年次には英語科目と同時に、日本語で専門科目の基本スキルとなる社会科学の考え方や学習手法を学びます。2年次からは専門科目を少しずつ英語で学び、3年次ではすべての科目を英語で学びます。

さらには、卒業までに行われる最低4週間以上の海外留学、3年次からのテーマに沿った少人数制の課題解決型の演習、集大成としての卒業論文の執筆などを経て、一人ひとりの学生に国際社会のリアルなビジネス現場で役立つ英語力と課題解決力を育んでいきます。

日本で標準的な教育を受けてきた高校生が、段階的に高度な英語力を身につけ、さらに問題発見・解決力を養えるよう、4年間という年月をかけて一人ひとり丁寧に育て上げ、卒業時には世界で活躍できる力を身につけられるよう教育していきたいと考えています。

今回の新学部は、既存学部の改組ではなく新規に立ち上げるものです。そのため、グローバル人材に最も必要である課題解決力の育成に焦点を当てた教育内容にしています。従来の国際系学部にみられる文化や交流を対象とした教育ではなく、国際社会を社会科学で分析するといったカリキュラムは独自性があり、同学部の最大の強みといえます。なお、国際社会科学部は学部名称としては日本で最初となります。学習院大学では、国際社会科学部の開設を国際化の一つのステップとして、大学全体としてさらなる「人の国際化」を目指していきます。

【学習カリキュラム】

英語科目と専門科目（社会科学）が連携した学習プログラムで、実践的な英語力を身につけます。

	1年生 英語力を高めつつ 社会科学を広く学ぶ	2年生 英語科目ではCLIL（クリル）の手法で学ぶ 専門科目も段階的に英語で学ぶ	3年生 英語で専門科目を学び 演習で課題解決力を育む	4年生 集大成として卒業論文を 書き上げる
英語科目	4技能（読む・書く・話す・聞く）を高める	社会科学の内容に関連させて運用力を高める	英語論文に活用できる技法を学ぶ	
専門科目 （講義）	日本語で社会科学を学ぶ	特徴2 少しずつやさしい英語で学ぶ	ブリッジ科目 高度な英語で学ぶ（全て英語での講義）	
留学科目	留学前の準備	特徴3 4週間以上の海外留学		留学後のキャリア形成
演習	分析手法を学ぶ 特徴1		特徴1 課題解決策を考え議論する	卒業論文の発表

*CLIL（Content and Language Integrated Learning）とは、英語科目の授業で英語での専門科目（社会科学）の理解に必要な表現力や語彙力を養いつつ、4技能（読む・書く・話す・聞く）を高める手法を言います。英語科目の授業でも国際社会についての教材を使うことで、学生の興味を保ちつつ、また、国際社会に関する語彙や言い回しを学ぶことで、国際社会に出たときの実践に役立てる意図があります。

*ブリッジ科目：国際社会科学部では2年次の前期から一部の専門科目が英語で教えられるようになります。ブリッジ科目は、その際に、突然すべての授業が英語になって不安になる、といったことを防ぐために英語科目担当の教員によるサポート体制を設けるための科目です。専門科目と同じ週に類似のテーマで英語科目の授業があることにより、専門科目の英語についてわからない点を英語教員が指導できるようになっています。

【教員紹介】※一部抜粋



マーチャンド・ティム 准教授（専門領域：コーパス言語学、英語教授法など）

1995年、イギリス・ノッティンガム大学卒業。ブリティッシュ・ガス等勤務後、98年、英会話講師として初来日。2010年、イギリス・アストン大学大学院修了（英語教授法修士号取得）。外務省研究所、慶応義塾大学、イギリス・サウスハンプトン大学講師等を経て、12年、桜美林大学常勤講師。13年よりベルギー・ルーヴァンカトリック大学大学院博士課程在籍中。15年4月より現職



入江 恵 教授（専門領域：応用言語学、英語教授法（TESOL）など）

1990年、カナダ・ウエスタンオンタリオ大学卒業。2004年、桜美林大学基盤教育院外国語部門（旧外国語教育センター）講師。05年、アメリカ・テンプル大学大学院教育学研究科修了（教育学博士号取得）。11年、東海大学外国語教育センター 准教授。11年、テンプル大学ジャパン大学院教育学研究科 非常勤教授。14年4月より現職

**星 明男 准教授（専門領域：会社法、国際ビジネス法、商取引法など）**

2001 年、東京大学法学部卒業。04 年、ハーバード大学ロースクール LL.M（法学修士）課程修了。05 年、ニューヨーク州弁護士登録。12 年、ケンブリッジ大学ジャッジビジネススクール M.Fin.（ファイナンス修士）課程修了。東京大学大学院法学政治学研究科助手、西村あさひ法律事務所フォーリンアトニー（外国資格弁護士）等を経て、15 年 4 月より現職

**乾 友彦 教授（専門領域：生産性、経済発展論、国際経済学）**

1985 年、一橋大学経済学部卒業後、日本政策投資銀行入行＜93 年～96 年、IEA（国際エネルギー機関）派遣＞。90 年、アメリカ・ジョンズ・ホプキンス大学経済学部修士課程修了（経済学修士号取得）。2000 年、日本大学経済学部助教授。03 年、同大学教授。06 年、一橋大学経済学研究科博士後期課程修了（単位取得退学）。09 年、日本大学経済学部教授。14 年 4 月より現職

【国際社会科学部の概要】**1. 学部学科名**

「国際社会科学部」 Faculty of International Social Sciences

「国際社会科学科」 Department of International Social Sciences

2. 学位名／卒業単位数

「学士（社会科学）」 Bachelor of Social Sciences ／ 124 単位

3. 定員

入学定員 200名（収容定員 800名）

4. 授業料（諸費含む）

4 年間 5,187,200円（初年度 1,446,800円／2～4 年目 1,246,800円）

5. 留学費用（渡航費、授業料、宿泊費、食費などを含む概算）

・短期（4～6週間）300,000円～1,000,000円 ・中期（1学期間）800,000円～3,000,000円

※中・長期留学先での学費負担がある場合、本学の授業料と施設設備費が減免されます。また、協定留学の場合、留学先の授業料が免除されることがあります。

6. カリキュラムの特徴

・英語と専門科目（社会科学）を同時に学習するカリキュラム

・4 週間以上の海外研修

7. 教員数

専任教員18名（英語5名、社会科学13名、うち女性教員9名）※国籍は日本を含む 6 カ国

【2016 年度入学試験概要】

入学試験名	募集人数	出願期間	試験日	願書配布予定
一般入学試験	100 名	1/5 (火) ~1/26 (火) ※1/27 (水) 窓口受付	2/11 (木)	11 月上旬
指定校推薦入学	30 名	11/1 (日) ~11/5 (木)	書類選考のみ	9 月中旬
公募制推薦入学	若干名	11/1 (日) ~11/5 (木)	12/12 (土)・12/13 (日)	9 月中旬
AO 入学試験	20 名	11/1 (日) ~11/5 (木)	12/12 (土)・12/13 (日)	9 月中旬

国際社会科学部の詳細はこちら

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/iss-pre/>

【報道関係者からの問い合わせ先】

学校法人学習院 総合企画部広報課

担当：円谷・松井・久保

TEL:03-5992-1008 FAX:03-5992-9238

E-mail:koho-off@gakushuin.ac.jp